

YOU·th·FUL



目次

[1]わたしたちの先輩クラブ –YMCA・Y's について–

- 1) YMCA ってどうやって始まった？
- 2) YMCA はどんな活動をしているの？
- 3) Y's Men's Club ってどうやって始まった？
- 4) Y's Men's Club ってどんな事をしているの？
- 5) YMCA と Y's の関係は？
- 6) 国際連合、YMCA、Y's の関係は？

[2]ユースの活動について

- 1) いろいろな場所で活躍する若者(ユース)達
YMCA ボランティアリーダー・Y's ユース・学生 YMCA
- 2) 日本の Y's ユース活動

[3]世界の Y's ユース活動 “We will make a difference”

- 1) 世界の Y's ユース活動の歩みと活動内容
- 2) なぜ、今ユースなの？
- 3) 今年はどんな活動を目指しているの？
- 4) ユースコンボケーションって何？
- 5) ユースインターン
- 6) ユース代表
- 7) YEEP/STEP

[4]参考資料

- 1) 重要語句
- 2) ワイズ用語
- 3) Y's、Y's ユース組織図
- 4) Strategic Plan for the Youth Involvement
- 5) ユースレポート(2004)
- 6) ユースクラブ設立に関するガイドライン

[1]わたしたちの先輩クラブ -YMCA・Y's について-

1)YMCA ってどうやってはじまったの？

「ロンドンの青年の熱意から始まった」

YMCA って、あのプールとかあったり、キャンプしたりするところ？そうです、でもそれだけじゃないです。いままでみなさんがなんとなく親しんできた YMCA について少しだけ紹介します。

YMCA は、今から 160 年前の 1844 年に、ロンドンで始めて作られました。YMCA を作ったのは、ロンドンで働いていた、20 代の若者達でした。その中心になったのが、ジョージ・ウィリアムズです。彼は、キリスト教信仰に基づいた、青少年の育成活動を目指しました。彼は、当時、貧富の差がひらいていくイギリスの現実の改善にも取り組みました。このような活動が広まり、1844 年にロンドンで YMCA が作られました。そして、YMCA は世界各国に広まり、キリスト教信仰の下に1つになって活動することをパリで確認しました。ちなみに、バスケットボールやバレーボールを作り出したのは YMCA なのです。日本では 1880 年に始めて、東京 YMCA が作られました。

YMCA のロゴは、三角形です。この三角形は、「Spirit(霊性), Mind(知性), Body(身体)」を表しています。知識や体力だけではなく、それぞれをバランスよく身に付けることを目指しています。



2)YMCA ってどんな事をしているの？

「キリスト教精神に基づいたユースの育成」

ロンドンで始めて創立されてから、160年。現在のYMCAでは、どのような活動が行われているのでしょうか。YMCAは、統括する範囲の大きさによって、国際(International)、地域(Area)、国(National)、区(Region)の4つに分かれています。日本のYMCAは、YMCA世界同盟とアジア・パシフィックYMCA同盟に属しています。すべてに共通するのは、「キリスト教精神に基づいたユースの育成」という精神です。これをどのような活動として具体化していくのかは、それぞれのYMCAによって異なります。ここでは、世界YMCAと日本の各YMCAの活動を取り上げて紹介します。

【世界YMCA同盟の活動】

平和構築、子ども、ユースの育成、HIV/AIDS、環境、ジェンダー、人種的・民族的公平などの問題への取り組み、「宗教間対話」(Interreligious Dialogue)

【日本のYMCAの国際事業】

1. キャンプ、野外活動
2. 貧困な人々への職業訓練、若者が主体的に生きていくための支援、環境問題への取り組み
3. 移民・難民・外国人労働者への支援
4. 緊急支援災害救助
5. その他：海外でのスタディーツアー、国際理解教育、フェアトレード商品の販売

【日本のYMCAの国内事業】

1. 生涯学習：英会話、パソコン教室、幼稚園、ホテル学校
2. スポーツ：プール、フィットネス、サッカー教室
3. ボランティア：街頭募金、障がい児支援、キャンプ
3. 福祉活動/事業：老人介護、不登校青少年の居場所提供

* * 近くのYMCAはどんな活動をしているんだろうか？ * *

3) Y's Men's Club ってどうやって始まったの？

「Y'sの前身：トリムクラブの誕生」

1920年、米国オハイオ州トレドのYMCAの中に、ポール・ウィリアム・アレクサンダー判事が中心となって会員増強の同志によるランチョンクラブ(昼食を共にする社会人のクラブ)が発足しました。このクラブは、青少年活動を行っているYMCAを支援しようという目的をもっていました。このクラブは、トレドのTOLとYMCAをくっつけて TOLYMCA クラブ(即ちトリムクラブ)と名づけられました。これがワイズメンズクラブの前身です。このYMCAをサポートする運動は、YMCAと共に地域奉仕を行う運動として、全米そしてカナダに広がりました。

「トリムクラブからワイズメンズクラブへ」

トリムクラブはこの運動により相応しい「ワイズメンズクラブ」(Y's men=YMCAの人)と名称を変えました。1922年、米国・カナダのクラブが集まって「ワイズメンズクラブ国際協会」を設立しました。その後、世界各地にクラブが結成され、地域における奉仕活動を行うとともに国際間の友情を育ててきました。当初会員は男性のみでしたが、のちに女性も平等に入会できることになりました。

「そして日本にも」

日本には、当時大阪YMCAの主事であった奈良伝によって紹介され、1928年に最初のクラブである大阪クラブが設立し、国際協会に加盟しました。その後ワイズメンズクラブは、神戸、横浜、東京など大都市に結成され、1932年日本区を設立、1997年には東西二区となりました。2005年7月現在、全国に150のクラブがあり計3000人以上の男女会員とその家族が活動に参加しています。

「世界の現状」

世界的に見ると、ワイズメンズクラブは北米・北欧・北東アジア(日本・韓国・台湾)及び南インドで最も盛んです。しかし少数ながら南米・中欧・アフリカ・大洋州・東南アジア諸国にも活発なクラブがあり、ワイズの仲間がいる国は71カ国以上になります。国際協会では、偶数年の7、8月に国際大会を開催します。これはいわば世界規模の例会です。クラブ会員一家族なら参加は自由で、4日間の会期中、世界の仲間と友情を厚くし、互いの活動から学び合います。ただの観光旅行でない貴重な体験が得られます。

4) Y's Men's Club ってどんなことをしているの？

Y's Men's Club の活動は、主に YMCA に奉仕を行うことを第一の目的として、以下のような活動を行っています。(参考:ワイズメンズクラブロースター)

- YMCA のためにサービスクラブとして活動する
- ワイズにふさわしい団体を支援する
- 地域や国際問題を偏った見かたをせず正義を追求する
- 様々な問題に会員たちとともに積極的に参加し取り組む
- 健全な交友関係を創り出す
- Y's の国際・地域・区の事業を支援する

具体的には、YMCA と共同のバザー、アジア諸国における学校設立の支援、ホームレスの人たちへの炊き出し、Y's ユース活動援助など様々です。

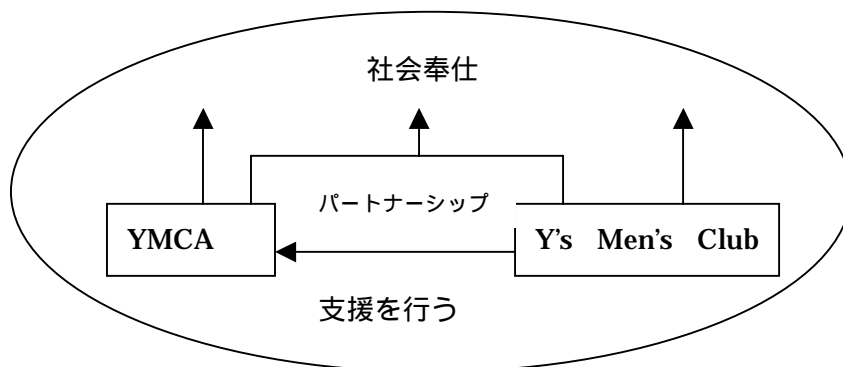
*** 近くの Y's Men の人たちはどんな活動をしているんだろうか ***

< 中心的な活動 >

< 英語での説明 >

5) YMCA と Y's の関係は？

YMCA と Y's Men's Club はパートナーです。それぞれの特色を生かしながらも、お互いに協力しながら、社会奉仕を行っています。



6) 国際連合と YMCA と Y's の関係は？

「国連の諮問機関として」

世界の YMCA は、128 の国で 10000 を超える数があり、3000 万人の会員がいます。本部はスイスのジュネーブにあります。このように国際的にも大きな存在感を示す YMCA は、国連において、諮問機関（国連 NGO）として参加する権利を持っています。YMCA が参加するのは、経済社会理事会（ECOSOC）です。ここでは、貿易・経済開発などの経済問題と、子ども・住宅・人種差別・女性の権利などの社会問題を担当しています。

「国連の承認を得るために」

Y's Men's Club は、2006 年に国連ユネスコからの NGO 参加の承認を得るために、現在国連に申請を行っています。ワイズがどういう団体なのかを国連を始め、世界へ向けてアピールしていくため世界共通プロジェクト（UGP）が 2004 年に採択されました。UGP とは、世界各国のワイズが共通して取り組むプロジェクトのことです。UGP として選ばれたのは HIV・AIDS プロジェクトです。ワイズは今後 5 年間継続して、この課題に取り組む予定です。日本では東西メネットクラブが、“STOP AIDS”のピンバッジを販売し、その資金をプロジェクトに寄付する活動を行っています。



【2】ユースの活動について

1) いろいろな場所で活躍する若者(ユース)達

「YMCA ボランティアリーダー」

キャンプや水泳のお姉さん、お兄さんたちです。子どもを対象にした、野外活動やスポーツ、文化活動など、各YMCAの提供するプログラムを中心になって実施するボランティアのユースのことです。彼らの存在無しには、YMCA プログラムは成り立たないくらいの活躍ぶりです！現在は彼らを、ボランティアリーダーという補佐的な立場であると同時に、世代を担うユースであると捉え直そうという動きが起っています。

「Y'sユース」

Y's Youthとは若者の視点で若者たちによる活動だと思います。これも個々に思いは違うと思うので明確にはできませんが、ワイズの活動に賛同し、若者たちだけでも何か行動できないかと考えて活動している人たちもしくは団体です。YMCAリーダーと違うところは、自分たちで決め自分たちで行動するというところです。もちろんディレクターのようにY'sの方たちもいらっしゃいますがユースが主体のクラブですのであくまでもユースが先頭に立って行動していくことです。ただし、ユースの組織的としては世界的にも地域的にもまだまだ新しく確立したものはありません。ワイズと同じように世界単位の事業を地域単位区単位に持ち帰り実際に行動するというをしています。ユースとともに成長していくのがY's Youthだと思います。

「学生YMCA」

札幌農学校において、クラーク博士に感化され内村鑑三が設立したのが始まりと言われています。現役の学生とシニアと呼ばれる卒業生を含みます。現在は12の寮のある大学YMCAにおいては、寮生活を、その他大学においてはキャンパス・ライフを共にしながら、聖書の学びや人間としての行き方、社会問題等の学びを共にし、ボランティア活動、海外の学生との交流、海外奉仕などを行っています。

「パートナーとして」

これらのユースは、異なった場所で活動していますが、YMCA、Y'sのもとで活動しているということでパートナーであると言えます。お互いが交流を深め、協力し合えば、友達や活動の幅も広がると思います。

2) 日本のY's ユース活動

日本でユースクラブを作ろうという動きは1988年から存在し、当てもユースの集まりが行われていました。しかし、正式に区に認められたのは、1997年の韓国大会に参加した有志によって作られたクラブでした。2003年12月現在、日本には4つのユースクラブ、東日本区にY3-East、Y3-宇都宮が、西日本区にY3-West、九州ヤングがあります。Y3-Eastでは、ブルトップを回収して車椅子と交換しインドのワイズへの寄付をおこないました。Y3-宇都宮では、Y's、YMCAのメンバーと定期的な集会を持ち互いの交流を深めています。また、各区の支援を受けて、世界中のユースが集うユースコンポジションへ、毎年多くの日本のユースが参加を行ってきました。

しかし、進学や就職に伴う移動でメンバーの数が大変少なくなっています。もっと多くの人と一緒に活動をしたい！！そしてその期待に応えられるようなプログラム作りをしていきたいと考えています。

【3】世界の Y's ユース活動 “We will make a difference”

1)世界の Y's ユース活動の歩みと活動内容

「国際ユースコンペーションの開催 ユース代表の選出とユースレポート - 」

ワイズメンズクラブの国際レベルにおいて、ユースの大会は 1986 年から行われていました。しかし、本格的にユースが組織化されたのは、1994 年の第 5 回のシンガポール大会においてです。この大会において、ワイズメンズクラブの子弟であるコメットが中心となり、親を敬いつつも、独自の組織と活動内容を持ちたいと動き出しました。

この大会でユースは、ワイズメンズクラブの組織を参考にしながら、国際ユース代表 (International Youth Representative, IYR) と各地域のユース代表 (Area Youth Representative, AYR) を選挙によって選びました。第一代目の国際ユース代表として選ばれたのは Teem Koivisto (フィンランド) です。ではなぜ国際ユース代表の選出が画期的だったのでしょうか？その理由は次の二つです。一つ目は、世界のユースによって国際ユース代表を選挙で選ぶという方法が確立したことです。二つ目は、ユースの代表が、ワイズの最高意思決定機関である国際会議 (International Council Meeting, ICM) へ参加することが認められたことです。Y's Men's Club 国際協会の中で、民主的な組織作りを行おうことを目指したユースにとって、このことは大きな一歩でした。

またこの大会から、参加したユースで今後二年間の計画を立て、それを「ユースレポート」という形でまとめるということが始まりました。このユースレポートは、これ以来ワイズの国際大会の閉会式でユースによって発表されることになっています。

「ユースインターンの登場」

1994 年のシンガポール大会の国際会議において、ジュネーブの IHQ に毎年ユースインターン (Youth Intern, YI) を置くということが決定されました。本部にユースインターンの受け入れを行ったのは、国際組織の中でワイズメンズクラブが初めてでした。1994 年にユースインターンの選考が行われ、翌年の 1995 年には、初代のユースインターン Ryan Metcalfe (カナダ) が誕生しました。歴代のインターンは IHQ で多くの “Papa や Mama” に囲まれながら、国際組織としてのワイズメンズクラブの働きを、体験する機会を得てきました。ユースインターンは主に「ユースワールド」というユース向け機関誌の発行やユースコンペーションの準備などの仕事を行っています。(ユースインターンの仕事内容については稲田菜々美さんの体験談を参照) * ユースワールドはダウンロードできます。 <http://www.ysmen.org/> (第 35 号には歴代のユースインターンの紹介あり)

「ユース独自の活動方針」

2000 年の香港大会では、ユース活動をより具体的に推進するために、当時の国際書記の方からの草案に基づいて、ユースが中心となって「ワイズダムにおけるユースの関わりのための戦略的計画 (Strategic Plan for the Youth Involvement in Y'sdom)」を作りました。この戦略的計画は三度の改訂を経て、現在では二年ごとに作成されるユースレポートと合わせて、ユースの包括的な活動方針を示

すものとなっています。(戦略的計画、ユースレポートについては後の参考資料を参照)

「ユースクラブの設立を目指して 地域レベルのユース活動へ」

2004年のインド大会では、国際ユース活動にとって新たなステージが訪れます。ワイズメンの国際会議においてユースクラブが、ワイズメンズクラブのパートナークラブとして正式に認められたのです。今までも各地にユースのグループはありましたが、ワイズメンズクラブとの関係を明記したり、ワイズの会議に参加したり、補助を得るための正式な規約は存在しませんでした。しかし、「ユースクラブ設立に関するガイドライン(Y's Youth Club -Formation Guideline-)」が国際会議で承認されたことによって、ユースが各地域で独自の組織を設立し、活動内容を決定していくための基盤ができたのです。これは、1994年のシンガポール大会で“Dream”として掲げられた目標でした。10年目にしてようやく夢が実現したのです。ようやく組織が整った今、本当の意味で各地のユースが活動を行っていく時にきていると言えます。

*ワイズユースクラブは15-25歳の若者のクラブです。ガイドラインについては資料参照。

2)なぜ、今ユースなの？

「活力あふれるワイズメンへ」

「ユースはワイズメンズクラブの未来だ！」と国際書記である Rolando Dalmas 氏は言っています。長い伝統をもつワイズメンズクラブがさらに活力あふれるクラブになるために、スキルを学び、やる気にあふれる若者の参加が求められています。

3)今年はどうな活動を目指しているの？

「各地域にユースクラブを！」

ユースクラブがワイズメンズクラブ国際協会によって正式にクラブとして認められたことを受けて、各地域にユースの活動できる場をもっと増やしていくことを目指しています。去年は前段階として、ユースクラブ設立のマニュアル作りや各国のユースクラブの実態調査を行いました。今年には国際のユースとしては、ワイズの方々とユースの繋がりを増やしていくこと(例会への参加、大会への参加など) 各国のユースの活動や現状を常に世界のユースでシェアすることで、互いのコミュニケーションを図ることを目指したいと思います。

「YEEP/STEP」

若い時の海外での経験は、その人の人生に大きな影響を与えることがしばしばあります。そのようなチャンスを与えてくれるのが、YEEP/STEP というプログラムです。しかし、ただの留学プログラムではありません。YEEP/STEP では、ワイズのメンバーの家にホームステイをするという形をとり、例会などにも出席する機会があるため、世界各国のすばらしいワイズメンやユースと出会い様々な経験をするチャンスがあります。また参加したユースはまたワイズで活動したいと戻ってくる傾向があるようです。このようなプログラムについて、情報の提供を中心に充実させていくことを目指しています。

「平和活動」

世界のユースの活動として掲げられているのが平和活動です。今年にはウェブサイト作りと、「ユースと平和」をイメージしたピンバッジ作りに取り組む予定です。

4) ユースコンボケーションって何？

「世界のユースの集い」

ユースコンボケーション、英語で書くと *Youth Convocation*。文字通りユースが話し合いを持つ場です。ユースコンボケーションには国際ユースコンボケーション (International Youth Convocation、IYC) と、地域ユースコンボケーション (Area Youth Convocation、AYC) があります。

IYCとは、世界中のユースが、二年に一度一ヶ所に集まりこれからの活動や決められた題目について話し合ったりします。また IYC の信認選挙が行われます。その他各国々の文化紹介や開催地の観光、レクレーションなどもあります。最終日には、同時開催されていた International Convocation に参加されたワイズメンとの合同の会が行われます。

AYCとは、各地域ごとのユースが、二年に一度 (IYCとは互い違いに) 一ヶ所に集まり、ディスカッションを行う場です。その他各国々の文化紹介や開催地の観光などもあります。

(井之上くつき)

「ユースコンボケーションの目的」

国際ではユースコンボケーションの目的として以下の5つが掲げられています。どの項目が中心に置かれるかは大会によって違いますが、

- (1) 日頃それぞれの場所で活動しているユースが集い話し合うことで、それらの活動をより充実したものにすること
- (2) ワイズ活動の信念や使命を学びプログラムを行うためのスキルトレーニングを行うこと
- (3) 今後二年間のアクションプランを話し合うこと
- (4) 異なる文化の視点から世界の動きを理解すること
- (5) お互いの交流を深めること

「これまでの開催地」

【IYC】

【アジアエリア AYC】

第1回 1966年 デンマーク

第2回 1988年 日本(京都)

第3回 1990年 アメリカ(ミネソタ)

第4回 1992年 ノルウェー

第5回 1994年 シンガポール

第6回 1996年 カナダ(フレデリクトン)

1997年 韓国(済州島)

第7回 1998年 フィンランド(ヘルシンキ)

1999年 日本(十勝)

第8回 2000年 香港

2001年 台湾(台南)

第9回 2002年 オーストラリア(シドニー)

2003年 フィリピン(マニラ) SARSのため中止

第10回 2004年 インド(コーチン)

2005年 韓国(春川)

* インド大会の感想、写真などは <http://goo.gaiax.com/home/ayc2005> を参照して下さい

「大会ハイライト！！」

1. 日本での活動紹介

日本での活動紹介は東西のコースでも活動が違い、個々の所属クラブによっても違いがあるので、日本のコースとしてこれということは一概には言えません。しかし、前回の IYC では東西共に各自の活動を紹介してきました。東はブルトップを集めて買った車椅子をインドのワイズメンズクラブへ寄贈するという形でコース全体に日本のコースの活動をアピールできましたし、西も歯ブラシを集めてカンボジアの子どもたちに寄付するという活動をディスカッションや個人個人等、いろんな場所でアピールしていました。

2. 文化紹介

大会には各国の文化紹介を行う時間があります。日本は団体でするものを良くやります。もちろん個々でやるものもありますが、少なくともひとつは全員でやるということを今まで数多くこなしてきました。盆踊りやよさこいソーラン節など踊りが中心ですが、その迫力に各国の代表の人たちも毎年大いに喜んでくれています。去年はよさこいソーラン節をやりました。衣装もしっかり統一して、練習に練習を重ね、本番はかなりカッコよく決まって自分たちも、他の代表の人たちも喜んでくれました。

3. コース代表の選出

国際大会 (IYC) では国際のコース代表 (IYR) が、地域の大会 (AYC) では地域コース代表 (AYR) が、選挙によって選ばれます。代表の立候補は、自薦他薦を問わず、25 才以下の全てのコースに認められます。選挙日の前日に、数人の候補者が当選後の抱負などをみんなの前で発表し、質問などを受けます。そして、最終日には、コースによる投票が行われ、過半数を得た候補者が当選となります。票は各区 (region) ごとに一票です。(日本は西日本区と東日本区の合わせて二票です。) コース代表は、その地域のコースをつなぎサポートする存在です。もちろん知識経験といったものも必要ですが、何より実行力が一番大切というところでしょうか。自分たちの代表を決めるので、ある意味一番大切なイベントの一つかもしれません。



左は車いすを贈呈するところ、右はヨサコイソーランを踊っている場面 (インド大会より)

* * * * ディスカッションに向けて * * * *

ユースコンボケーションであなたはどんなことをしてきたいですか。

今年の韓国 AYC では、HIV/AIDS についてのフォーラムがワイズの方との共催で開かれます。

日本の HIV/AIDS について少しまとめてみましょう。(英語バージョンも作ってみよう！！)

(1) Have you ever learned about HIV/AIDS before? If yes, where and how?

(あなたは HIV/AIDS について学んだことはありますか。どこで、どのように学びましたか。)

(2) Do you think the number of people with HIV/AIDS is decreasing or increasing in Japan? (日本では HIV/AIDS の感染者の数は減っているとおもいますか、増えていると思いますか。)

(3) What does the Japanese government do to keep down the number of infected people?

(日本政府は感染者の数を増やさないためにどのような取り組みをしていますか。)

(3) What do Japanese YMCAs and Y's Men's Clubs do for HIV/AIDS problems?

(日本の YMCA やワイズは HIV/AIDS の問題についてどのような取り組みをしていますか。)

(4) What do you think you can do through YMCAs and Y's Men's Clubs?

(あなたは YMCA や Y's を通して何ができるとおもいますか。)

5) ユースインターン(Youth Intern)

ユースインターンとは、Y'sユースが、ジュネーブの国際本部で一年間働くというインターンシップ制度の一つです。2001-2002の間ユースインターンとして働いた稲田菜々美さんに職務内容について聞きました。

* IHQでのユースインターンの募集は毎年秋頃から始まります。興味がある方は現在のユースインターンに問い合わせてください。アドレスは、<http://www.ysmen.org/> より入手可能。

1. ユースワールドの編集

全世界のワイズユースから送られてくる記事をパブリッシャーで編集します。それを、Eメールを持っているユースにはEメールで、Eメールをもっていない人や、希望者には印刷バージョンを送ります。基本的に、インターンの期間に雑誌を4回発行するのですが、ネタが少ないときは、ユースワールドを発行できません。インターンの重要な仕事としては、このためにネタ集めをしなければならないのですが、ユースの連絡網のアップデートが非常に大変でした。音信不通になってしまったユースが多すぎて、「あの人は今?!」みたいな状態で調査していました。ホームページをアップデートするのもインターンの仕事です。

2. ユースコンボケーションの準備

ユースコンボケーションの内容を決める: かつてのインターンや、ユースレプレゼンタティブ、ホスト国のユース、リージョナルユースレプレゼンタティブ等とネット上で連絡を取り合い、内容を検討しました。また、経験のあるユースを招いて、内容・進行等の打ち合わせを行いました。ユースコンボケーションに参加するユース達に配分する補助金については、すでに決定されていましたが、その申し込みの受付・審査の事務的作業をユースインターンが執り行っていました。不当な申請を通過させないように、気をつけて仕事していました。ユースコンボケーションの表舞台では、ユースレプレゼンタティブや、各国のユースに活躍してもらおうということで、裏役の仕事をインターンがしています。

3. ミッドイヤーミーティングの準備

各国から国際議員さんがきて、ワイズの予算や、問題点など話し合う会議が毎年開かれています。それを、ミッドイヤーミーティングと呼ぶのですが、これが、毎日のように会議三昧で、とてもハードです。会議にも参加しますが、ミッドイヤーミーティングの資料を準備したり、各国からいらっしゃる議員さんの宿泊の準備、レストランの予約・など、毎日が大変盛り。ただ、この期間中は、会議に参加したり、いろんな国の議員さんから世界のワイズの話をきいたりできるので、楽しみも多いです。

4. 雑務

国際本部が出すニュースレターを各国に送ったり、(封筒を何百も作ったり)、本部に山のようにある文書の整理もインターンの仕事です。ユースインターンというのは、その場限りの職業ではなく、将来、得たことを還元する人作りプログラムの一環だと言えます。それと、日本の会社の新入社員が受けるような充実した教育制度はありませんが、何をやりたいかという意味さえあれば、いかようにも自分を成長させることができる場所だと思います。提案としては、もう一人、ユースインターンを事務所におくといいですね。お給料は半分になったとしても、同世代の考え方が少し増えるだけで、解決できることも多々あるから。インターンの応募年齢については、少し、大変かなという気がします。仕事の内容や、ジュネーブという土地柄上、専門的な勉強を思いっきりしてからスイスに来るか、高校生ぐらいでくるかの、どちらかがいいと思います。日本人にとっては、大学卒業後すぐというのは、あまりに将来性を限定するような気が...

稲田 菜々美

6) コース代表 (Youth Representative)

コース代表とは、国際大会の選挙において選ばれ、二年の任期で国際、あるいはその地域のコースの代表として働く人たちです。ここでは、国際コース代表の仕事について中心に紹介したいと思います。興味がある人は、直接コース代表に問い合わせてみて下さい。アドレスは、<http://www.ysmen.org/> より入手可能。

1. コースの組織

国際のコースでは、国際コース代表、エリアのコース代表、コース国際事業主任、コース代表メンター、コースインターン、国際書記によってコース委員会がつけられています。この委員会においてコースに関する決定が行われます。話し合いのほとんどはメール上で行われています。(コース代表メンターは、コース代表の指導役として国際議員の中から任命されます。)

2. ワイズとコースのパイプ役

コース代表の大きな仕事の一つは、ワイズとコースのパイプ役になるということです。コース代表は、日常的にはメンターと連絡を取り合って仕事をします。国際代表は、年一回のワイズメンの国際会議へ参加すると共に、年に二回、コースの活動状況についてのレポートを提出します。またコースに対してはICMでの状況を、コースの機関誌、手紙、コースコンボケーション、地域や区の大会において報告しなければなりません。

3. コース活動のサポーター

国際コース代表は、the Strategic Plan for Youth Involvement in Y'sdom とコースレポートに沿って目標を設定します。そして、コース委員会において、どのようにそれを進めていくのかについての話し合いを進めていきます。国際コース代表とコースインターンのチームワークはとても大切です。また、同じ思いを持った各国のコースと、話し合いながら一つのプロジェクトを進めていくことは、とても貴重な体験だと言えます。

しかし、実際は国際コース委員会にできることは多くはありません。なぜなら実際に活動するのは、各地域のクラブのメンバーだからです。そういう意味で国際コース委員会は、コース活動のサポーターであると言えます。

4. 次回の国際コースコンボケーションの準備

国際コース代表は、次回のコースコンボケーションのプログラム準備を手伝います。特に、国際代表選出の選挙については、中心になって進めなければなりません。また、次の代表に対しての引き継ぎも重要です。

(文責:橋崎頼子)

7) YEEP/STEP

YEEP/STEP というのは、ワイズメンの子女(高校生が多い)の交換留学プログラムです。留学希望の一年前に自分のクラブに申請すれば、受け入れ家庭を国際が探してくれます。ワイズの家家庭に派遣されると言うことで、他の留学制度よりも安心できる場所もあるようです。YEEP は一年間、STEP は半年までのプログラムです。2005 年に STEP で三ヶ月間フィリピンのセブ島に行ってこられた山野翠さんの報告です。

* 留学プログラムについては、近くのワイズメンズクラブの方に問い合わせして下さい。

STEP報告

山野 翠(広島ワイズメンズクラブコメット)

2005 年 2 月 12 日から 4 月 29 日までフィリピンのセブ Y M C A に行ってきました。

現地では、セブ Y M C A に住ませてもらっていました。といっても、Y M C A 職員も Y M C A の中に住んでいる人が多いので、ホームステイをしている感覚が半分、ホテルに泊まっているという感覚が半分でした。

Y M C A まで英語の家庭教師に来てもらい、毎日 2 時間英語の勉強をしていました。また、英語の他にもセブの言葉セブアノ語も Y M C A の職員に教えてもらいました。Y M C A の中には英語が話せないスタッフもいたので、セブアノ語を覚えてもらった事で、コミュニケーションをとることができました。おかげで、時間ができるときに Y M C A の中でバドミントンをしたり、卓球をしたりして過ごすことができました。

また、Y M C A にあるレストランのスタッフとは特に仲良くなり、キッチンで日本食を作らせてもらったり、フィリピン料理の作り方を教えてもらったりしました。長い間レストランにいたので、お客さんにスタッフと間違えられたりもしました。帰る頃には、スタッフのかわりにミネラルウォーターやジュースの代金を受け取っていました。

たまに、日本人が泊まりに来たり、私の親戚の友人が遊びに来たりもしたので、その人たちに観光案内をすることもありました。

旅行にも行かせてもらいました。マニラに 1 回とカミゲン島に 2 回です。マニラには、私の友人がいるので、1 週間行かせてもらいました。カミゲン島は、Y M C A のスタッフの出身地ともいうこともあり、日本では知られていない島に行くことができました。1 度目は、スタッフの家にホームステイさせてもらいました。たった 2 日間でしたが、島の観光をさせてもらいました。2 度目は、セブ Y M C A のプログラムで行きました。そのプログラムに参加することで、新たなフィリピンの友人に加え参加していたホノルル Y M C A の友人をも作ることもできました。

十分に時間のあるなかで、たくさんの友人に囲まれフィリピンの文化を学ぶことができ、とても充実した日々を過ごすことができました。戦時中の話や現在の国内状況など、とても貴重な話も聞かせてもらいました。わたしにとって、今後ずっと交流を続けていきたい友人と出会えたことや、忘れられない体験や話を聞くことができ、うれしく思うとともに感謝しています。

【5】参考資料

1)重要語句

NGO (Non-Governmental Organization)

日本語で、非政府組織と訳される。国家以外で国際活動にかかわる民間の人々の団体である。国際関係だけで世界には、1万5000もの団体がある。冷戦後、市民は主権国家の枠組みを超えて活動し、平和、軍事、環境、人権のあらゆる分野で圧力団体として活動している。YMCA、Y's Men's Club は、国際 NGO である。

NPO (Nonprofit Organization)

日本語で、民間非営利団体と訳される。政府でも、市場でもない、市民の自発的な活動を行う組織である。日本では NGO とほぼ同義で使われることもある。福祉、環境、人権、海外協力などの領域で拡大している。日本では1995年の阪神淡路大震災の際をきっかけにボランティアが組織され、その後、NPOの活動を支援する法律が1998年に作られた。

グローバル化 (Globalization)

経済・政治・文化などの様々な分野で、空間、時間が圧縮され、世界が一体化していくこと。また、そのような意識が形成されること。ハリウッド映画やマクドナルドに象徴される世界を均質化していく傾向を持つと同時に、ローカルな文化を顕在化させ紛争を起すという、二つの面を持つ。NGOは、そこで生じる問題をいかに解決するのかが求められる。

グローバルな問題 (Global Issues)

世界の全ての国に影響を与え、それを解決するのに、全ての国の協力が必要となる問題。例えば、地球温暖化問題、天然資源、開発、人権、核兵器、地雷の問題も含まれる。

市民社会 (Civil Society)

人々の意見や判断や活動を基盤にして成立する公的領域であり、国家と経済市場からは相対的に独立している領域である。(坂本義和の定義)

持続可能な開発 (sustainable development)

「開発」と「環境の保護」の両立を可能にしようとする中ででてきた政策的な考え方である。国連の報告書をきっかけに広がった。環境破壊や資源の枯渇に対する危機意識のもと、資源のリサイクル、再生可能な資源への転換などが訴えられた。

2) ワイズ用語

IBC (International Brother Clubs)

クラブが外国の特定クラブと兄弟縁組を行い永続的な交流を続けること。またはその相手クラブのこと。新たにIBC関係を結ぼうとするクラブ同士は、十分な準備ののち、IBC締結式を行い、締結書を交換する。IBC関係の年限を定めることもある。国内クラブ同士の同様の関係をDBCと言う。

ASF (Alexander Scholarship Fund)

ワイズメンズクラブの創始者 P.W.アレキサンダーを記念して、将来YMCAに奉仕しようとする有為の青年に財的支援をする目的で創設された奨学資金。東日本区では、自由献金を奨励して必要な資金を作っている。その1割を国際ASF事業に送り、残る部分をYMCAサービス・ASF資金として、現在はYMCA若手主事の研修にも、援助の巾を広げている。

YEEP (Youth Educational Exchange Program)

ワイズメン子女(高校生レベル)の交換留学制度。家族ぐるみワイズ経験豊かな家庭ならば、派遣・受け入れ共に参加資格がある。派遣の場合、希望する年度(原則は夏 - 翌年夏の1年間)の前年に自クラブを通じて東日本区YEEP担当事業に応募すると国際を通じ希望相手国内に受け入れクラブ探しが行われる。

CS (Community Service)

地域奉仕の意。国際タイム・オブ・ファスト事業の区内推進と、区独自のCS資金の募金・運用活動を合わせ、東日本区ではCS事業と呼んでいる(それぞれの項を参照)。各クラブは、区のCSに参加するとともに、関係YMCAと協力して、その地域社会の求めに応える奉仕の実践を心がける。従って、CSとは、大は地球社会の、小は近隣社会の隣人への奉仕活動であるといえる。

STEP (Short Term Exchange Program)

ワイズ子弟に限らず、ワイズに理解のある15 - 25歳の青年が応募できる、3 ~ 12週間の短期交換制度。異国のワイズ家庭に滞在し、その地のワイズユースと共に種々の体験学習をする。応募は希望派遣期間の半年以上前に、クラブを通じて、東日本区STEP担当事業主任に申請書類を送る。

TOF (Time of Fast)

世界の飢餓に苦しむ人々を覚えるため、ある月のクラブ例会の食事を抜きにして、その分の金額を国際に集め、その年度に定めた支援目標に捧げる奉仕活動。途上国で民生向上のため苦闘しているYMCAが、世界YMCA同盟を通じて給付を申請する。これをTOF委員会で審議し、国際議会で支援先・給付額を決める。

BF (Brotherhood Fund)

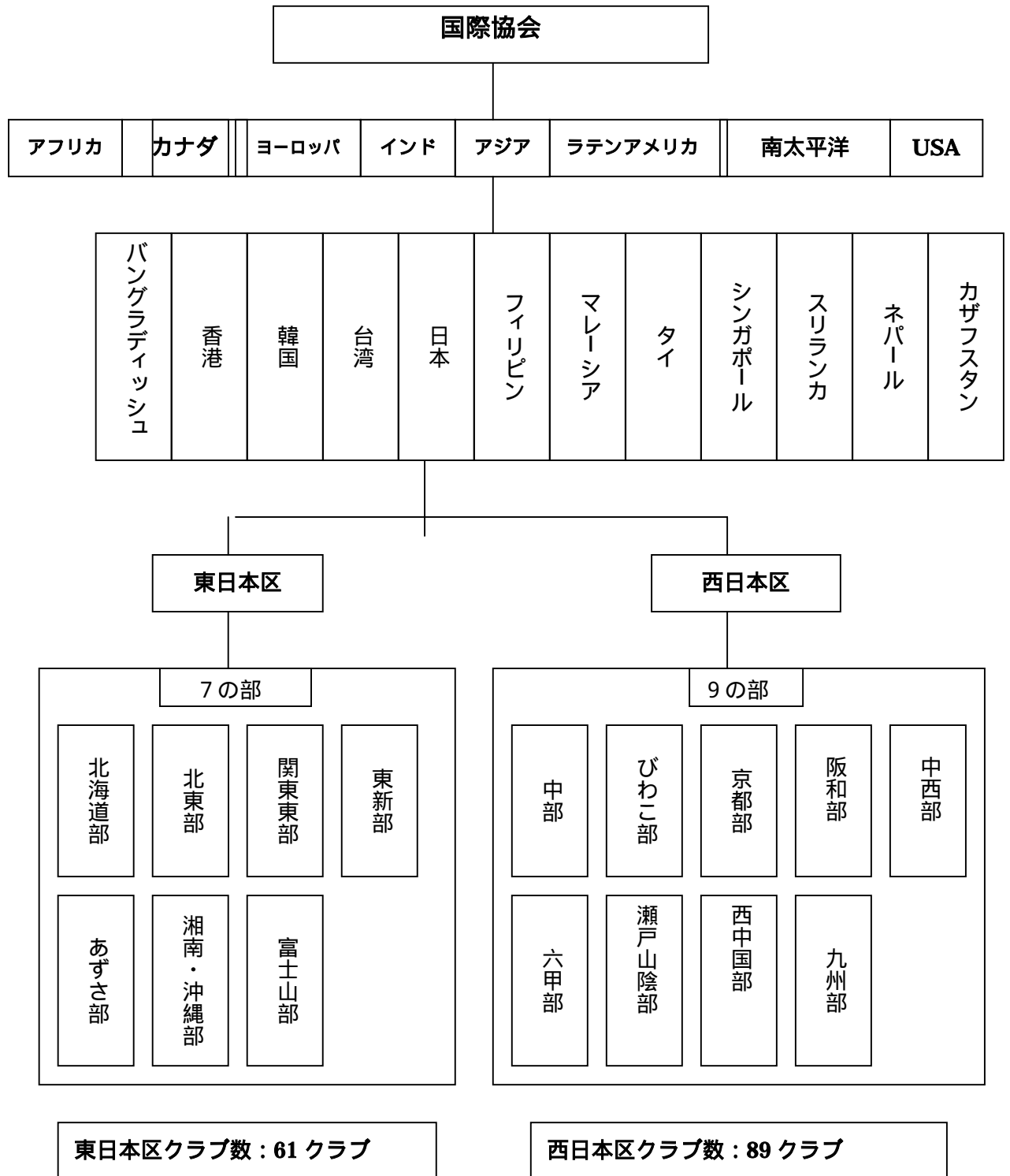
かつてはビショップファンドと言われていた。BF代表や国際役員が公式の旅行をする時の旅費を補助する資金源として、全ワイズメンの参加によって積み立てられる基金。使用済み切手を集め、整理して、切手市場で換金する方法が主力だったが、次第に現金の拠出による貢献が増えてきた。切手を有利に換金するために奉仕する専門家のワイズメンをフィラテリスト、また、この資金の支出面を担当する委員会をBFECという。

YMCA Service

東日本区の事業の一つで、YMCAへの直接の奉仕を立案・実行する。YMCA指導者育成のための財的援助を目的とするASFもYMCAサービスの重要な一環であり、各クラブは、区レベルのサービスと共に、関係する地元YMCAに対しての的確な奉仕と協力を進める事が求められている。

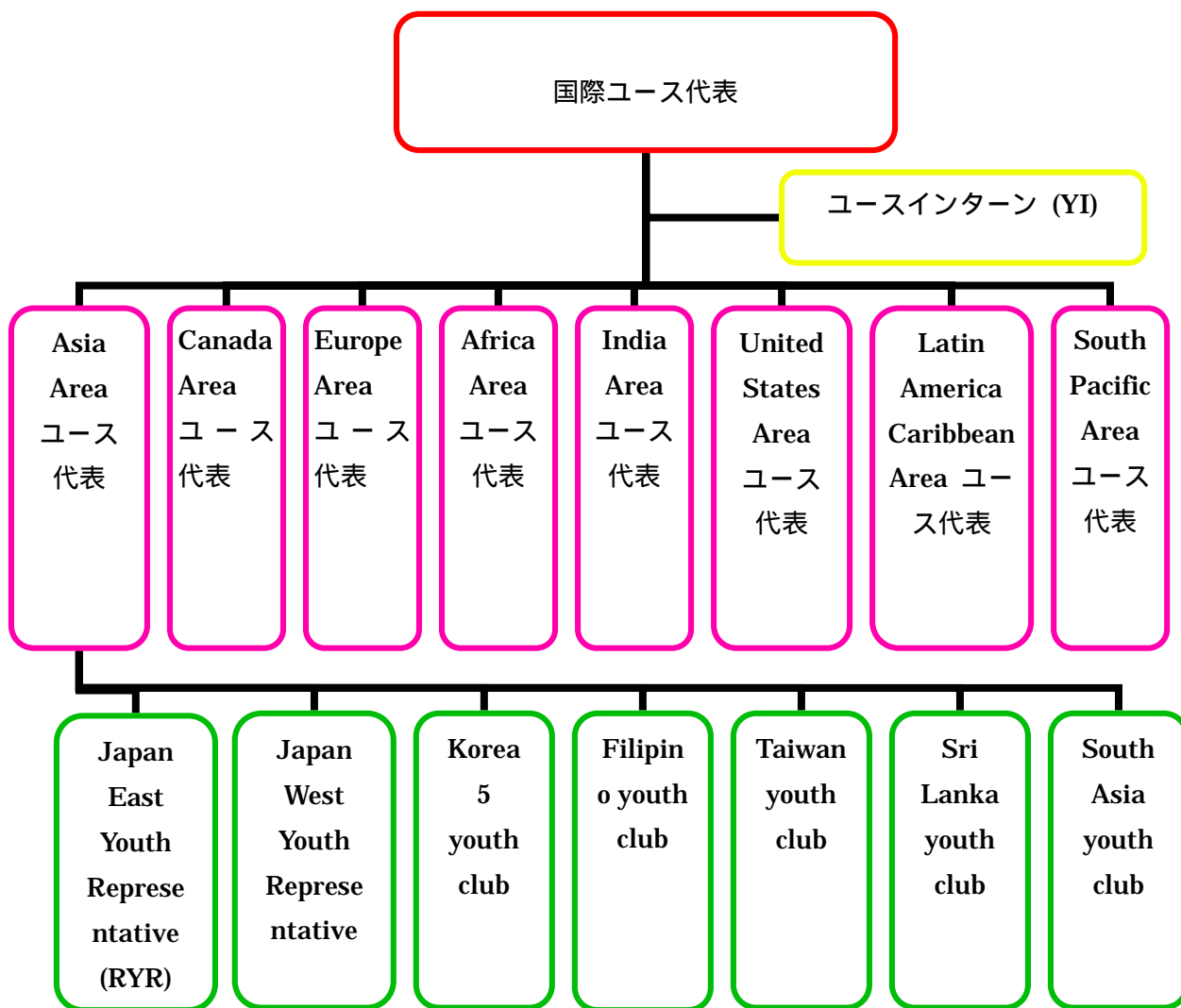
3) Y's、Y'sユース組織図

Y's 組織図



2005. 7月現在

ユースの組織図



4) ワイズダムにおけるユースの関わりのための戦略的計画 -Strategic Plan for the Youth Involvement in Y'sdom-

A) 前文: 「すること」と「しないこと」

- ・我々はユースの団体だとみせかけたりユースに奉仕する団体と思われたりしたいという事ではなく、若い人たちが実際に我々運動に積極的参加する一員になってもらいたいです。例えば、リーダーシップトレーニングにおける意思決定を助け、具体的な行動を実行するなどです。
- ・我々はユースがワイズの組織の「傍らで」参加するのではなく、中に入って参加して欲しいと望んでいます。
- ・我々は YMCA が作成したすばらしいユースプログラムと競い合ったりはしません。ユースの参加によって、YMCA へやコミュニティーへの支援をより充実させたいと望んでいます。

B) この計画の目的

この計画の目的は以下の5つです

1. ユースの参加を、ワイズメン国際協会の全てのレベル(ローカル、リージョン、エリア、国際レベル)において促進すること
2. ワイズダムの働きやプログラムの全ての領域における、ユース包括的な能力を育成するため、ユースレベルにおけるリーダーシップトレーニングを促進すること
3. 現在行われている、YEEP、STEP、ユースコンボケーション(YC)などのプログラムを促進すること
4. 新しいユースプログラムを決め、促進すること
5. ワイズダムにおけるユースの会員を増やすこと

C) 計画に基づく活動

1. 国際ユース委員会は電子的なコミュニケーションを通じて定期的な話し合いを行い、年一回直接合って話し合いを行う
2. 電子的なネットワークを通して世界の寄り大きなユースグループと定期的に話し合いを持つ
3. ユースリーダーシップトレーニングやキャパシティービルディングの促進のために
 - a) 国際レベル: 国際ユースコンボケーションの一部に組み入れる
 - b) エリアとリージョンレベル: エリアとリージョンレベルの一部に組み入れる
 - c) 全てのレベル: 遠隔トレーニング
4. 国際ユースコンボケーションを以下のような特別なトピックで組織する
グローバル問題に関して見識のある講演者の招聘、ワイズのミッションやビジョンに関するワークショップ、暴力に NO、平和と公平、ジェンダーの平等、企業家精神の技能、ユースワークの技能、YEEP・STEP、ユース TOF、各国の文化紹介特にホスト国など
5. エリア、リージョンのユースコンボケーションも上と同様のトピックで行う
6. ローカルクラブにおけるユースの方針の採択を促進する。その後、リージョン、エリア、国際レベルとする
- 7.かつて上記の活動に参加していた25才以上のユースによって作られる Youth/Adult クラブの設立を支援する

8.Y's Men 国際協会を大規模に宣伝する事によって会員を増やす

- ・ 各エリアで使えるような宣伝・募集用のパンフレットを作成または改訂する
- ・ これらを友達、公共図書館、コミュニティーセンター、教会、学校などに配る
- ・ テレビでの宣伝活動を行う
- ・ Y-Websiteとリンクしている掲示板を作る
- ・ Youth World への電子アクセスを促進し、適当な形式(PDF)でダウンロードできるようにする
- ・ 将来的なメンバーへの Youth World の配布を拡大する
- ・ IYCとIC、AYCとACにおいて、ユースに関連したブースを設ける
- ・ 各エリアにユースファンドをつくる(ファンドは各ユースがユース活動によって作る)

9. 世界、エリア、ローカルレベルにおいて Y's Menユースが YMCA のユースの集まりに参加する機会を増やす

10. 世界、エリア、ローカルレベルにおいてYMCAユースをY's Men のコンボケーションに招待する

11. YMCA のユースも含め、YEPP & STEP プログラムへの参加者を増やす

12. YMCA のユースプログラムを支援する

13. Youth World の配布を促進し、発行部数を増やす

D) 計画を進めるためのツール

以下の8つは現時点での計画を進めるツールです。

1. 国際ユース委員会(IYC)
2. ウェブ上でのユースネットワーク
3. ワイズメンズクラブ国際協会のウェブサイト
4. 国際ユースコンボケーション(IYC)
5. エリアやリージョンのユースコンボケーション
6. ローカルクラブのユースメンバー
7. ユースメンバーで構成されるローカルクラブ
8. YEPP や STEP などのユースプログラム

E) この計画を促進、調整、実行する人材

1. 計画の全体的な調整は国際書記及び国際ユース委員会(IYC)の責任とする
2. 計画の全体的な促進と実行は、ユースインターンと国際ユース委員会の責任とする
3. 異なるエリア間の調整はユースインターン、ユース代表、ISD YIA、ISD YEPP・STEPの責任とする
4. 各エリアやリージョンにおけるこの計画促進、調整、実行は、エリアユース代表、リージョンユース代表とYIA、YEPP・STEP の ASD、RSD の責任とする
5. ISD YIA と ISD YEPP・STEP には若い人が就くのが望ましい

F) 計画実行の過程(アクションプラン)

国際ユースコンボケーションで話し合われる

5) ユースレポート

Y's Men International

展望を持ち行動する若者



第 10 回 国際ユースコンボケーション 2004 レポート

(第 66 回 ワイズメンズクラブ国際大会 2004 に於いて報告)



テーマ:「平和の文化を築く」 恵まれない人に一つの光を灯そう

<目次>

はじめに

【1】ユースクラブ

【2】ワイズ活動におけるユースの関わりにおける戦略的計画

【3】平和の文化を築く(BCP)活動

おわりに

はじめに

私たち、第10回 国際ユースコンボケーション(IYC) 2004の参加者は、我々一人ひとりが持っている光を広めていくことを、手を取り誓い合いました。これは、世の中の恵まれない人々を取り巻く闇を取り除くためです。2004年のIYCは、ろうそくに火を灯し、光を受け渡していくという象徴的な場面から始まりました。

私たちは、ワイズ・ユースクラブ(以下、YYC)について話し合い、YYCを通じてコミュニティの中で行うことについて、将来的な計画を立てました。また、私たちは、ユース交換留学プログラムをどのように再活性化するかについても話し合いました。国際ワイズメンズクラブ(YMI)の最も重要な事業である“Say No To Violence(暴力に反対)”を、より肯定的な印象を与える“Build a Culture of Peace(平和の文化を築く)”(以下、BCP)へと名前を変更しました。

また、YYC活動を促進していくため、期限を定めた詳細なアクションプランを作成しました。最後に、私たちは、より活動に力点を置いたスローガンを提案しました。このスローガンは、我々の活動を一つの傘の下に集わせるものです。それは、「恵まれない人に一つの光を灯そう」です。

【1】ユースクラブ

私たちは、ワイズ・ユースクラブ設立に関するガイドラインを承認していただいた事を、2004年の国際議員の方々に感謝いたします。ガイドラインの各項目を詳細に話し合った結果、以下のような定義、アクションプラン、提案がなされました。

我々はユースを、16歳から25歳の、ワイズ活動の発展と継続のために積極的にワイズダムに参加している個人であると定義します。しかし、年齢を超えたユースが持っている知識と経験を失いたくないので、私たちは、彼らがアドバイザーやリソースパーソン、ファシリテーターとして、地域活動やコンボケーションの場で共に活動してくれることを歓迎します。

ガイドラインに述べられているように、ユースクラブは、以下の名前で設立することができます。

- ・ワイズ・ユースクラブ
- ・ワイズ・ユース・サービスクラブ
- ・ジュニア・(ワイズメンズ)クラブ

ユースクラブの会員は、国際、エリア、区のいずれの段階においても、YMI へ国際の会員費を支払う必要はありません。しかし、私たちは、ユースクラブの地域における活動や事業の資金を得るために、エリアごとでユースから寄付金を集めたり、資金づくりの活動を行います。

私たちは、ユースの考えを明示し、プロジェクトを実施するための計画として、以下のような段階的なアクションプランを提案しました。

- (1) ユース委員会は、2004-05 におけるユース活動に関する詳細なワークプランを、2004 年 11 月 1 日までに作成する。
- (2) ワイズダムにおけるユースクラブとユース活動の案は、ユースが BCP に関する地域事業を、2004 年 11 月 1 日までに地域のワイズメンや YMCA と協力して行うことによって広めていく。ユースの関心や興味を引くようなことを行うことで、若者を引き付けるようにする。
- (3) 行われたプログラムに関しては、国際事務所のユースインターン(YI)と国際代表(IYR)に報告する。
- (4) ユース委員会は、ワークプランに基づいて地域のユースに働きかけ、各地域で BCP/TOF プロジェクトを行われるようにする。それによって、積極的に活動するユースのグループを編成する。
- (5) 各地域の積極的なユースグループは、YYC という正式な組織形態によって編成され、詳細は期日までに YI,IHQ,IYR に報告されなければならない。
- (6) ユースクラブは、自分達のリーダーシップトレーニングのセッションを行う。その際、経験のある、先輩ワイズメンをリソースパーソンとする。
- (7) ユースクラブの会員は、YMI のユース交換留学プログラムを促進するための方途を確保する。具体的には、毎年少なくとも一人の交換留学生を自分のクラブに迎え入れる。
- (8) ユース委員会は、YYC が取り組む世界共通のプロジェクト(Unified Global Project)に関する新しいアイデアを提案するために話し合う。
- (9) ユース委員会は、YI と IYR の協力を得て、新しく作られたユースクラブがきちんとネットワーク化されているか、また、ユースワールドやワイズメンのウェブサイトを通じて、データと情報が世界全体に共有されているのかについて責任を負う。
- (10) ユースクラブは、常にワイズの理念、考え方、展望を心に留めて活動する。

以上のようなアクションプランを実施するために、私たちは、以下のような点で、ワイズメンの方々のご協力を必要としています。

< 資金面 >

ユースクラブを始めるための資本が必要な場合などに、ユースクラブに対して、融資していただきたく思います。また、後に資金を集めるプログラムによって、返金したいと考えています。

< リーダーシップトレーニング >

ワイズ活動の中で得られたワイズの方々のご経験と知識を、私たちにお話頂きたいです。

< 励ましと支援 >

困難な状況においても、コースが意欲を失わないよう、励ましとご支援をいただきたいです。

私たちは、コースに関わる地域事業を行うことによって YYC の数が増え、盛んになり、成長していくために力を尽くすことを約束します。

[2] ワイズダムへのコースの参加に関する戦略的計画

コース委員会は現在、特に国際的なイベントの準備に関しては、コンピューター上で連絡を取り合っています。そして、最近では、ワイズメンズクラブの国際大会と、関連するテーマを扱い、並行する形で、国際とエリアのコンボケーションが行われることが恒例となってきています。

また、私たちは特に、国際会議でコースクラブについての最終案が承認されたことを大変うれしく思います。そして将来、より多くのコースのメンバーがこのようなタスクフォースに加わってくれることを願っています。私たちは、コース同士のやり取りをより活発にするために、コンピューター上のユーザーグループを作ることを決めました。この取り組みは、2004 年 IYC 参加者の何人かの主導の下に、すでに始まっています。私たちは、これを通して、頻繁なやり取りを行っていきたくと考えています。

コースワールドが現在、ワイズのウェブサイト上で直接読むことができ、簡単にダウンロードすることができるようになったことをご報告できることをうれしく思います。

[3] 平和の文化を築く (BCP) 活動

私たちコースは、“Say No To Violence (暴力に反対)” という名前を、より肯定的な面をだすために、“Built a Culture of Peace (平和の文化を築く)” へと変更する事を決めました。そして、コースクラブではこれを国際的なプロジェクトとして承認することが決まりました。コースタスクフォースは、毎年、このプロジェクトの一つの側面に焦点を当て、全てのコースクラブがそれに従って活動するよう連絡を行います。

プロジェクトの例を挙げると、平和行進、HIV/AIDS プロジェクト、平和キャンペーンなどがあります。「ストップ HIV/AIDS」プロジェクトは、われわれ若者が優先して取り組むべき重要な課題です。

エリアのコース代表は、各コースクラブから「平和の文化を築く活動」に関する記事を集め、コースワールドやワイズメンの出版物に掲載します。また、私たちは、お互いの考え方や最新の情報を共有、伝達するためにウェブサイトを作ることを提案しました。

おわりに

コースとは、熱意に満ち、理想を描く世代です。一人ひとりのコースが、「義務感を持つ、全ての権利には義務が伴う」という私たちのモットーを実現するために指導されなければなりません。責任あるコースとは、今日そして未来の、見識あるワイズメンのリーダーのことなのです。

6)ユースクラブ設立に関するガイドライン

(A) ワイズ・ユースクラブ(YYC)の目標と目的

(1) クラブの目標

「ワイズ・ユースクラブ」(以下、YYCとする)は、相互に尊重、配慮し合いながら活動し、イエス・キリストの教えに基づき、キリスト教青年会(以下、YMCA)への奉仕を行おうという思いを持った人々の団体であるワイズメンズクラブ国際協会(以下、YMIとする)の「一部」であり、全ての人々にとって、より良い世界を築いていくために、リーダーシップの開発、啓蒙、提供を積極的に行っていく。

(2) クラブの目的

- a) ユースが積極的に活動に参加し、YMCAの掲げる高い奉仕の理想を促進し、YMIがYMCAとコミュニティーに対して奉仕するクラブとして働くことを奨励する。
- b) YMIは家族で参加する運動であるという考え方を促進する。
- c) 会員個人が成長する機会を提供する。
- d) 会員同士の親睦を深める。
- e) 積極的に参加し、実践することもボランティア・サービスの一部であることを学んでもらう。
- f) 政党政治から常に距離を置きながら、市民活動や国際情勢における正義を促進する。
- g) 会員たちが常に宗教的、市民的、経済的、社会的、国際的な問題に対して情報を得、それらの問題に積極的に関わっていけるようにする。
- h) 次世代のリーダーシップを育成する。
- i) 世界平和のためのユース事業を促進する。

(B) YYCの定義

YYCは、ワイズメンズクラブではないが、YMIによってパートナーまたは協力関係にあるグループとして正式に認められたクラブである。

(C) 会員

YYCへの入会資格は15歳から25歳までの男女とする。

(D) 国際ワイズメンズクラブ(YMI)における地位

YYCは、YMI組織の一部であり、YYCクラブの会長と代表者は、部と区の役員会に出席する権利と義務がある。従って、エリアと国際のユース代表にも、エリアとIHQの協力によって、同様の権利と義務が与えられる。

(E) YMCA との関係

YYC は、YMCA をサポートする、もしくは、ワイズメンズクラブと地域の YMCA の協力関係に基づいて YMCA と共に活動することが期待される。YYC の活動は、YMCA のプログラムと対立することはない。

(F) 会費

YMI、エリア、区、部のレベルで会費が徴収されることはない。

(G) クラブ名: 以下のうち一つをクラブ名の一部に使わなければならない

- 1.ワイズ・ユースクラブ
- 2.ワイズ・ユースサービス
- 3.ジュニア・ワイズメンズクラブ (または、メンズなし)

(H) 正章 (Emblem)

YYC の正章は国際事業主任の補助を得てデザインされる。

(I) 事業主任の役割

全てのレベル(国際、エリア、区、部)におけるユース事業主任は YYC を支援しなければならない。

(J) コンボケーション、コンベンション

YYC の会員は、ユースコンボケーションそしてワイズメンのコンベンションにも参加することが期待される。

原案: 2004 年 7 月 31 日
修正第一案: 2004 年 8 月 9 日
修正第二案: 2004 年 8 月 11 日

ユースクラブ設立に関する委員会 委員

ICM 西村隆夫 (議長)
APE Janet Siew
APE Dona Ward
IYR Aparna Menon
YI Cristhiane Bakos